

優秀作品には、審査員の評価による賞が贈呈されます。

【審査員紹介】

- 井上 泰治 (映画監督、主な作品に『水戸黄門』ほか)
- 池田 和生 (KBS京都 ディレクター)
- 津田 正夫 (立命館大学特別任用教授、元NHKチーフプロデューサー)
- 横地 由起子 (京都シネマ 支配人)
- 濱島 薫 (社団法人京都府聴覚障害者協会 会長)
- 橋本 英憲 (特定非営利活動法人京都市中途失聴・難聴者協会 理事)
- 高田 英一 (特定非営利活動法人CS障害者放送統一機構 理事長)

★ 審査結果発表

★ 審査員による講評



昨年度 表彰式の様子

あなたも審査員のつもりで・・・

作品タイトル	良かった!	感動!	うーん・・・	ひとつ
① 一期一会				
② 伝える				
③ タケロウ日和				
④ わる柿				
⑤ <ゆう楽会>の活動				
⑥ 僕と彼女と碁盤の幽霊				
⑦ 虹とゆかいな動物たち				
⑧ くまろうCATS				
⑨ 人形アニメーションで学ぼう 千葉の地方手話				

\* 恐れ入りますが、個人様の評価は本審査には反映されません。

# 2010年度 さがの聴覚障害者映像祭

2011年 2/26[土]

映画と演劇にかけた鬼才



会場 全国手話研修センター(コミュニティ嵯峨野)

〒616-8372 京都市右京区嵯峨天龍寺広道町3-4

- ★主 催 社会福祉法人 全国手話研修センター
- ★後 援 財団法人 全日本ろうあ連盟
- ★協 力 特定非営利活動法人 CS障害者放送統一機構

10:00~

聴覚障害者が制作した

# 応募作品上映

あおき たかし  
司会 青木 毅 (目で聴くテレビ)

## 応募作品

- 馬場 博史  
『一期一会』 (10分)
- 松谷 琢也  
『伝える』 (20分)
- 彩の希望 (代表者:秋田 寛)  
『タケロウ日和』 (12分29秒)
- 手話舞台「箱！」 (代表者:小西 貴美子)  
『わる柿』 (20分)
- 陶芸教室 ゆう楽会 (代表者:研谷 誠一)  
『<ゆう楽会>の活動』 (13分)
- 伊藤 徹也  
『僕と彼女と碁盤の幽霊』 (9分30秒)
- 菅原 智子 (秋田県立聾学校)  
『虹とゆかいな動物たち』 (1分30秒)
- 熊本県立熊本聾学校 (代表者:松永 和治)  
『くまろうCATS』 (20分)
- 千葉聴覚障害者センター (代表者:上野 圭哉)  
『人形アニメーションで学ぼう 千葉の地方手話』 (5分)



「一期一会」



「伝える」



「タケロウ日和」



「わる柿」



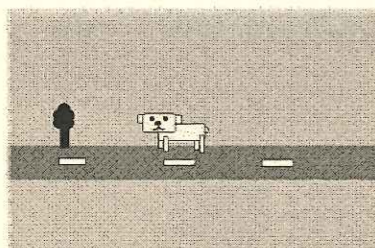
「<ゆう楽会>の活動」



「くまろうCATS」



「僕と彼女と碁盤の幽霊」



「虹とゆかいな動物たち」



「人形アニメーションで学ぼう 千葉の地方手話」

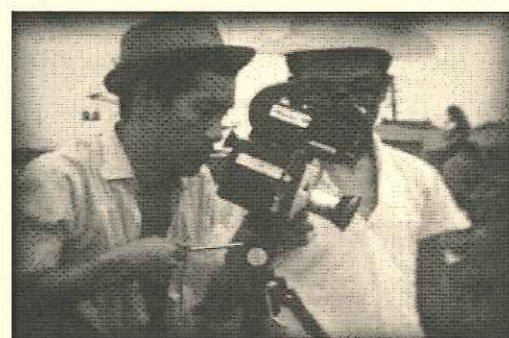
13:30~

特別企画

# 深川勝三監督のろう映画

没後26年秘蔵映像上映と講演

彼の語り継がれた物語は、やがて大きな伝説となっていきます。



没後26年になる深川勝三監督は、1924年東京で生まれたとされています。「ろう者映画の曙」と言っても良いくらいエポック的な存在でした。深川監督は1985年脳膜炎により逝去しましたが、彼の語り継がれた物語は、やがて大きな伝説となっていきます。

昭和36年に完成された「楽しき日曜日」は、映像撮影も全く未知のろうあ者達が力を合わせ制作した、初めての作品でした。驚いたことにこの作品は、今では珍しくなった8ミリフィルムで撮影されました。このフィルムは1本3分しかなく、当時フィルム代も現像料も高く、費用がかさむと言われたものです。

手話で生き生きと演技するろうあ者を演出撮影し、フィルムをつなぎ合わせ編集する。気の遠くなるような作業をこなした忍耐の人は、今は亡き深川勝三監督。彼が生きていた間は、最も大変な時代でありました。仲間たちが、毎日曜ごと集まり、仕事や生活の苦勞などを打ち明け、模索しながら励ましあっていたのです。その中で「名もなく貧しく美しく」公開のきっかけで、演劇仲間から映画づくりの話を持ち上がり「睦(むつみ)聾啞映画演劇研究会」を立ち上げました。

撮影素材もなく、仲間たちの大事な8ミリカメラを調達提供、会費を出し合って制作費用にするなどの工夫を、情熱でこなし、毎日曜日を撮影、制作に当たったのです。時には仕事の都合でスタッフが欠けたり、野次馬に邪魔され、「オシの映画」と見物人に騒がれ、辛い思いをしたこともありました。

彼の作品からあちこちに昭和三十年代の雰囲気や、当時のろうあ者のあり方を知ることが出来ます。それに、今はもはや死語になっている手話の語彙がいくつか見られますが、これはろう者の歴史を語るといってもいいくらい貴重な作品だといえるでしょう。



## 講演 深川勝三監督のろう映画

Guest たかしょうじ 高正次

### Profile

「睦(むつみ)ろう者映画友の会」会長。  
1935年1月神奈川県横浜市生まれ。同市在住。  
1958年手話劇「ハムレット」レータス役を演じたことから、深川監督作品「楽しき日曜日」に出演するきっかけとなり、「三浦浩翁半生記」「たき火」に出演した。おおだて監督作品「迂路」では、主演の父役を務めた。

Host おおだてのぶひろ 大館 信広

### Profile

ろう映画制作グループ「デフムービーエンターテインメント プロディア」代表及び監督。1959年7月茨城県生まれ。神奈川県横浜市在住。  
独学でこれまでに代表作「迂路」など20本近くの作品を手掛けており、欧米の映画祭に多く参加している。2011年5月の新作公開に向けて制作を進行中。  
目で聴くテレビのディレクターで「おおだて監督のコーナー」の番組がある。

\* 深川監督の遺作「たき火」の上映を目指して、「楽しき日曜日」と「三浦浩翁半生記」のパンフレットを会場内で販売いたします。

# 2010年度 さがの聴覚障害者映像祭

## 応募作品 上映プログラム

1. 『一期一会』 (2009年制作/フィクション/約10分)

いち ご いち え  
ば ば ひろし  
制作者 馬場 博史 (大阪市)

▼監督プロフィールおよびコメント:  
他、長編作品の映画を製作中です。作品のタイトルは『サインゾーン』  
今回の出展作品は、自分の経験を基にした作品です。

▼作品のテーマ: 人と人の出会いに「偶然」は無い。「必然」なのだ。

◆撮影機材: SONY ◆編集機材: アップル社[Mac BOOK Pro] ◆音声: なし
2. 『伝える』 (2010年制作/フィクション/約20分)

まつ たに たく や  
制作者 松谷 琢也 (奈良県) ★前年度最優秀賞受賞

▼監督プロフィールおよびコメント:  
WEBコミックでてる「蠶」連載中。  
出展作品「コーダ」「20年目のプロポーズ」、さがの障害者映像祭最優秀賞をとりました。  
聴者にとって色々考えさせられる映画ですので、ぜひ見てください!

▼作品のテーマ: ろう文化、ろうの世界

▼作品内容: 当たり前前かが当たり前でない。分かっているようで、分かっていた事実。  
ろう者&聴者カップルは、うまくやっていけるのか?

◆撮影機材: SONY[2003年] ◆編集機材: パナソニック[2009年] ◆音声: なし
3. 『タケロウ日和』 (2010年制作/ドキュメンタリー/12分29秒)

ひより  
あや きぼう  
制作者 彩の希望 (大阪府) 代表者: 秋田 寛

▼作品のテーマ: タケロウ日和とは、タケはタケノコを略して、ロウは蠶をカタカナに変えたものです。  
日和は、撮影当日に天気良かったので、日和というピッタリなテーマを付けました。

▼作品内容: 蠶のタケノコ掘り名人にインタビューをし、同時に名人からタケノコ掘り初体験の人に、  
手話を使って、タケノコ掘り方を教え、掘ることの楽しさを皆さんに伝える。

◆撮影機材: SONY「HDR-XR5000」 ◆編集ソフト: コーレル[ビデオスタジオ×3] ◆音声: なし
4. 『わる柿』 (2010年制作/フィクション/約20分)

がき  
しゅわ ぶたい はこ  
こにし きみ こ  
制作者 手話舞台「箱!」(京都市) 代表者: 小西 貴美子

▼監督プロフィールおよびコメント:  
2008年『手話刑事』さがの障害者映像祭優秀賞受賞。2009年『サテンの女』同佳作受賞。  
今回は舞台の芝居を完全映像化に挑戦しました。手話映画、3作品目です。  
この作品は、2010年秋に行われた手話劇コンクールで発表した芝居を映像化してみました。  
全編オール亀岡ロケです。亀岡の自然豊かなロケーションもお楽しみ下さい。

▼作品のテーマ: 座長と見習い2人の攻防(狂言「附子(ぶす)」「柿山伏」より)

▼作品内容: ある処にチンドン屋の見習いが2人いました。ある日、座長が2人に練習を命じて出掛けます。  
練習に飽きた2人は、座長が大切にしている箱をこっそり開けようとしてます。  
中には臭いをかいだだけで死ぬという毒が入っているらしい。果して2人は・・・

◆撮影機材: Panasonic「DVX-100B」 ◆編集ソフト: コーレル[ビデオスタジオ] ◆音声: あり
5. 『<ゆう楽会>の活動』 (2011年制作/ドキュメンタリー/13分)

らく かい かつ どう  
とうげい きょうしつ らく かい  
とぎ たに せい いち  
制作者 陶芸教室 ゆう楽会 (奈良県) 代表者: 研谷 誠一

▼監督プロフィールおよびコメント:  
工務店活動の傍ら、各種ボランティア団体への参加や、<ゆう楽会>工房の運営、若者を対象にしたラジコンサーキットの運営など。  
田川先生と知り合ってから、現在に至るまでの<ゆう楽会>の活動、人とのコミュニケーションの楽しさを感じとっていただけたらと思います。

▼作品のテーマ:地域に密着・貢献する〈ゆう楽会〉

▼作品内容:ろう者と健聴者が共生している陶芸工房〈ゆう楽会〉が、活動開始から5年経過した。展示会の開催でろう者だけでなく、地域の人たちにも工房が認知された。地域に密着した子どもの陶芸教室等、幅広い活動をまとめた。

◆音声:あり

## 6. 『僕と彼女と碁盤の幽霊』 (2011年制作/フィクション/9分30秒)

制作者 伊藤 徹也 (大阪市)

▼監督プロフィールおよびコメント:

某ゲーム会社に3DのCGデザイナーとして勤務。趣味で短編映画やアニメ作品、四コママンガの製作等をしていきます。

以前に、写真だけを使った映像作品を見たことがあり、自分も一度やりたいと思っていました。映像は撮らなくても、写真を撮る人は多いと思います。(面白くなるかどうかはともかく)写真でも作品が作れるという一つの例になればいいなと思っています。

▼作品のテーマ:人の想いと碁盤の奥深さ

▼作品内容:ある日、男が碁を並べていると、目を閉じた際に、見えない何かが石を打った。男はそれを、彼女の幽霊と信じるのだった。

◆撮影機材:PENTAX[Optio330GS]/Pnasonic[NW-GS400] ◆編集ソフト:Adobe[AfterEffects] ◆音声:なし

## 7. 『虹とゆかいな動物たち』 (2011年制作/ろう学校作品/1分30秒)

制作者 菅原 智子 (秋田市 秋田県立聾学校)

▼監督プロフィールおよびコメント:

制作歴 半年間。情報デザイン科で画像の勉強をしており、そこで映像作品を作りました。

初めての作品ですが、たくさんの人に見て、楽しんでもらえたら嬉しいです。

▼作品のテーマ:動物が大好きなので、動物への思いを表現しました。

▼作品内容:秋田聾学校のオリジナルソフトで作りました。1コマ1コマずつ、丁寧に作りました。いろいろな動物が登場して、ストーリーを作っています。

◆編集ソフト:秋田聾オリジナルソフト ◆音声:なし

## 8. 『くまろうCATS』 (2009年制作/ろう学校作品/約20分)

制作者 熊本県立熊本聾学校 (熊本市) 代表者: 松永 和治

▼監督プロフィールおよびコメント:

熊本県立熊本聾学校小学部で、音楽と図工科を担当。

子どもたちに、音楽表現の楽しさを味わってもらいたいという願いで取り組んできました。

一人ひとりの個性が光る作品になったと思います。

▼作品のテーマ:自己表現

▼作品内容:永遠の命を夢見る猫たちが、自分のくらしや願いを歌で表現する音楽劇。

それぞれの猫の一生や思いを想像しながら、子どもたちが歌や表現方法、衣装やヘアメイクを考え、音楽や図工の授業の中で作り上げました。

◆撮影機材:SONY [NTSC DCR-TRV50] ◆編集ソフト:CANOPS [エディウスJ] ◆音声:あり

## 9. 『人形アニメーションで学ぼう 千葉の地方手話』 (2011年制作/フィクション/約5分)

制作者 千葉聴覚障害者センター (千葉市) 代表者: 植野 圭哉

▼監督プロフィールおよびコメント:

千葉聴覚障害者センターの主な制作番組(2010年度)

『地方の手話』(千葉編 第一話・第二話) 『つつらうら』(千葉・銚子編)

『それいけ!くいしんぼ』(千葉・茂原編)

『第10回全国障害者スポーツ ゆめ半島千葉大会 ニュース映像』 その他多数。

▼作品へのコメント:初挑戦のアニメーション制作は試行錯誤の連続でした。

粘土の人形が手話をする姿をぜひ一目ご覧ください!

▼作品内容:『目で聴くテレビ』で放送されている『地方の手話』の特別版として、千葉の地方手話の紹介番組を、実写と人形アニメーションの合成という今までにない新しい試みで制作いたしました。

◆撮影機材:Canon [EOS 40D] / Panasonic [HVX200] ◆編集ソフト:Adobe [PremiereCS4] ◆音声:なし